

vine

山梨大学広報 ヴァイン
2026 Spring vol.48



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

| 特集1 | 梨大生のとある一日

| 特集2 | J-PEAKSによる世界トップレベルの
研究教育ハブの構築

| 人物発掘 | 山梨GLIAセンター 繁富 英治 教授

| ゼミ紹介 | 地域の水研究室

| pick up Lesson | ワイン品質評価学

| クローズアップビープル | 藤本 真稔

(教育学部 科学教育コース4年生)

根本 織華 (医学部 看護学科4年生)

| サークル紹介 | 陸上競技部・

IFMSA Exchange Yamanashi

| 学生広報スタッフがリポート | CAMPUS GUIDE

ものづくり教育実践センター本館

| UNIVERSITY OF YAMANASHI NEWS&TOPICS |

梨大生のとある一日

A Day in the Life at University of Yamanashi

生命環境学部3年生の
とある一日をのぞいてみます!

Start!



8:50

自宅から大学までは徒歩約8分。バタバタしがちな朝も、余裕をもって通学できるのが嬉しいポイントです。



9:00

図書館では、友達と一緒に授業やゼミの課題に取り組むことが多いです。集中しつつ、分からないところはすぐに相談できます。

10:00

ゼミでは、地方創生や関係人口、多様な働き方、アントレプレナーシップについてアクティブに学んでいます。学年を超えて進捗を共有し、刺激を受けながら学びを深めています。



12:00

お昼は学食を利用したり、コンビニに買いに行ったり、家に帰ってご飯を作ったりと日によってさまざま。授業がある日は、友達と楽しいランチタイムを過ごしています。



13:10

「観光経営学Ⅱ」の授業の様子です。この日は星野リゾートの社員の方をゲストにお招きしました。教科書では学べない現場で働く方のリアルな話を聞くことで、将来のキャリアや自分に合った仕事について考えるきっかけになります。



17:00

友達と解散した後は、アルバイトに行くか図書館を利用することが多いです。落ち着いた空間で、勉強や調べものに集中できるお気に入りの場所です。



14:40

授業後は友達と話しながら次の教室へ移動します。棟同士の距離も近いので、移動教室もあまり時間はかかりません。



15:00

空きコマは友達とお話ししながら過ごします。キャンパス内にはベンチスペースも多く、外の空気を感じながら気持ちよくリフレッシュできます。



Good bye!

profile



生命環境学部
地域社会システム学科
田中ゼミ3年

中村 玲亜さん(静岡県出身)

- キャンパス内でお気に入りの場所
富士山が見える生協の「なしかフェ」
- 学食でおすすめメニュー
チキン竜田井
- 梨大を選んだ理由
地域に根ざした学びを、実践的に深められると感じたから。

● 最近頑張っていること
将来につながる学びに、仲間と前向きに取り組んでいます。



田中ゼミHP

この記事の撮影を担当しました

生命環境学部
地域社会システム学科4年
山崎 泰知さん
(写真部 部長)





J-PEAKS
による

世界トップレベルの研究教育ハブの構築



山梨大学
J-PEAKS特設サイト

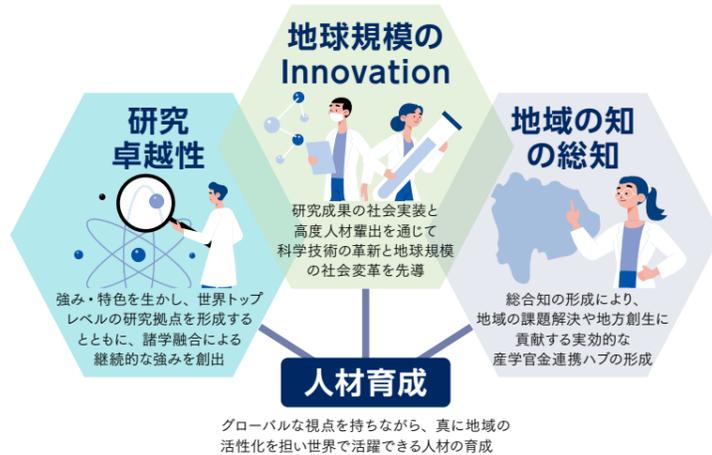
研究強化事業「J-PEAKS」始動

採択大学は25大学のみ
山梨大学は、日本の研究力向上やイノベーション創出の一翼を担う拠点に選定されました！

山梨大学は、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。J-PEAKSは、地域の中核大学等がそれぞれの強みを活かし、新たな価値を創造していくための事業です。延べ134大学の申請に対し、採択は本学を含め25大学という難関を突破しました。

今後J-PEAKSの支援を受けながら、日本有数のグリーン水素研究を世界トップレベルに強化するとともに、大学全体の研究力強化と成果の社会実装を推進し、さまざまな強み・特色分野を育成します。これにより、地域とともに、世界的なイノベーションを起こすことを目指します。

J-PEAKSで目指す山梨大学のビジョン



学長メッセージ

J-PEAKSは大学改革！学長が全ての教員・職員に対し、以下にあげる具体的取り組みを説明



グリーン水素の研究教育ハブ「GR/EEN」新設

水素先進地の山梨県で、研究と教育の基盤を築いてきた山梨大学
大学、地域、そして世界をつなぐ国際拠点に発展！



GR/EEN

Global Research Institute for Energy & Environmental Neutrality
グローバルニュートラルエネルギー研究機構

山梨大学と国内外の研究機関の研究力を結集させ、技術革新と社会変革を目指します

グリーンエネルギー研究センター (2001年～)

水素・燃料電池ナノ材料研究センター (2008年～)

ゼロエミッションみらい研究センター (2025年～)

最新鋭の研究設備・機器の整備

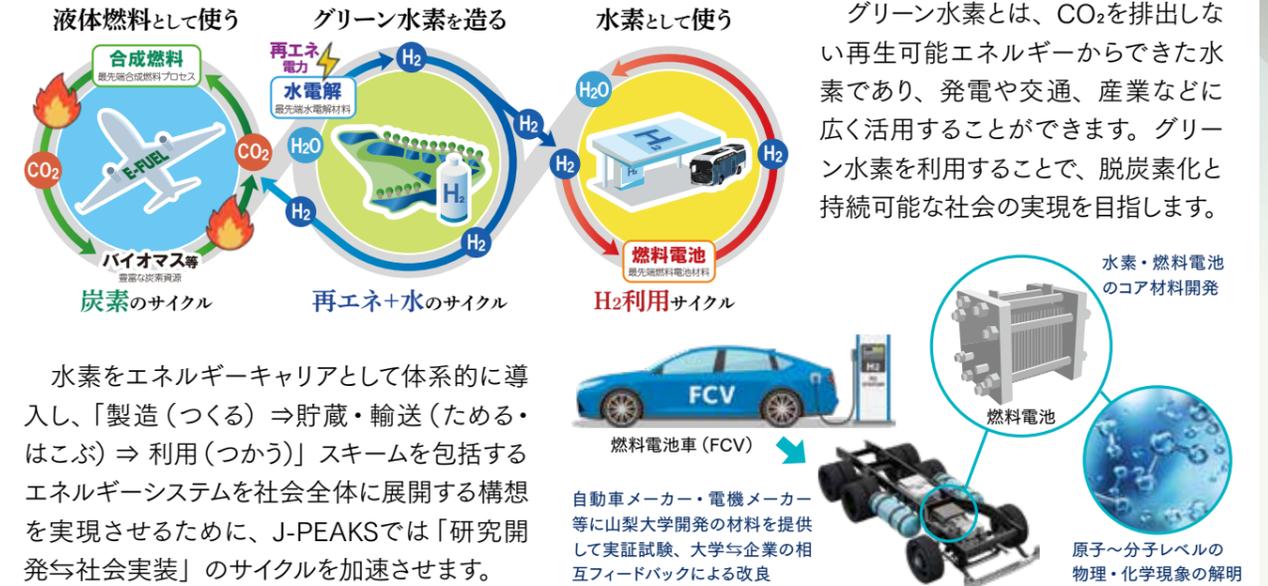
山梨大学の学生や研究者はもちろん、学外の方も利用するための共用化促進

2025年12月3日 設立記念シンポジウム



私たちが目指すグリーン水素社会とは？

水素を造る・使う技術の革新と社会実装へ



水素をエネルギーキャリアとして体系的に導入し、「製造(つくる)⇒貯蔵・輸送(ためる・はこぶ)⇒利用(つかう)」スキームを包括するエネルギーシステムを社会全体に展開する構想を実現させるために、J-PEAKSでは「研究開発⇄社会実装」のサイクルを加速させます。

最先端のサイエンスにもとづく教育プログラム

グローバルな視野を持ちながら、社会課題解決や産業振興に貢献する人材

大学・大学院：国内唯一の特化型プログラム

- 工学部クリーンエネルギー化学コース：学士から修士、博士まで専門知識と技術を体系的に学習
- 福島大学等、国内のさまざまな大学と連携し、地域社会の課題解決や産業振興に関する実践型学習
- ドイツ、マレーシア、カナダ、米国等の連携大学に留学できるグローバル教育体制(構築中)



人材育成を通じて、山梨県に事業所をもつ企業の新規参入を促進

社会人対象のリカレント・リスキリング講座

- 山梨県からの要請・委託、および企業等のニーズに応じて、2025年は3つの講座・コースを実施
- 水素・燃料電池産業技術人材養成講座：基礎的な知識から、実習による燃料電池の組み立てと新製品試作の開発プロセスを実体験。2016年に開設し、延べ207名が修了。
 - 水素供給インフラ周辺ビジネス人材養成講座：今後成長の見込まれる水電解装置等の組立やメンテナンス業務(設置、配管、電気工事等)といった周辺ビジネス分野への参入に必要な知識を習得。2025年に開設し、21名が修了。
 - 水素・燃料電池産業技術人材養成講座事業化コース：水素・燃料電池事業を新たな経営の柱にすることを旨とする県内企業等の方々を対象に、市場獲得に向けた事業化戦略等を立案できる人材を育成。2024年に開設し、延べ21名が修了。

NEURON-GLIA CROSSTALK CEN

専門分野 神経生物学、神経化学、神経薬理学
学位 医学博士
略歴 (高校卒業～現在まで)
 1995年 千葉県立船橋高等学校 卒業
 2000年 東京理科大学薬学部薬学科 卒業
 2002年 東京理科大学薬学研究科薬学専攻 修了
 2005年 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科 修了 (医学博士)
 2005年 東京慈恵会医科大学
 日本学術振興会特別研究員 (PD)
 2007年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校
 生理学部門 Postdoctoral Scholar
 2010年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校
 生理学部門 Assistant Researcher
 2012年 山梨大学大学院医学工学総合研究部
 薬理学講座 特任助教
 2017年 山梨大学大学院総合研究部 医学域
 薬理学講座 助教
 2021年 山梨大学大学院総合研究部 医学域
 山梨GLIAセンター 准教授
 2024年 山梨大学大学院総合研究部
 山梨GLIAセンター 教授



自身の力で時間をかけて身につけたものは財産となり、
 人との出会いは人生を形作る上で大事なこと。
 人との出会いを通じて自己研鑽に励み自分らしい道を見つけたい。

幼少期の思い出

いわゆる普通の子どもだったと思います。友達と草野球をしたり、ドッジボールをしたりして遊ぶような子どもでした。今の仕事と関係していそうなことで強いて言えば学研の付録が楽しかったくらいで、小中学校のころは将来研究者になるとは考えてもいませんでした。

学生時代の思い出

私が研究職を意識するようになったのは、学部4年時あるいはそれ以降の修士課程・博士課程に在籍するころです。学生として研究生活を始めた際に、研究室の学生は私一人でしたが、当時の指導教員であった加藤総夫先生を

始め周囲の先生方および先輩方は親切に接して頂き楽しい研究生活を過ごせました。学生時代の研究生活では知識も経験も足りない中でのスタートでしたが、自身で考えたり努力したりして得られた成果を論文などの形で評価されたことは自信につながりました。加藤先生との出会いは私の人生観を大きく変え、その後の人生 (Baljit Khakh 先生のラボへの留学および小泉修一教授主宰の薬理学講座への赴任) にも大きな影響を与えました。節目節目



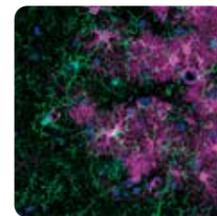
学生時代 (左から2番目)

で新しい環境に身を置いたことで、視野が広がり、また、多角的な考え方が身についたように思います。また、その経験は私にとって大きな財産となっていると思います。

現在の先生の研究について

脳の仕組みの大部分は神経細胞の働きによって理解されています。脳を形作る細胞のおよそ半数は非神経細胞で、その大多数はグリア細胞です。このグリア細胞は、神経細胞同士の間を埋める「糊」として長らく考えられていました。しかし、この考え方は、近年のイメージング技術の進展によって、大きく修正されてきています。グリア細胞の中でも、私は特にアストロサイトに着目しています。アストロサイトの活動は、

アストロサイト(マゼンタ)と
 ミクログリア(緑)



神経細胞とは異なるタイミングや空間的な広がりを示し、これによって脳機能を積極的に制御する可能性がわかってきています。また、アストロサイトの異常は脳の病気とも密接に関わり、場合によっては病気の主役となることも明らかになってきています。我々は、アストロサイトがどのような分子(物質)を使って、脳や末梢臓器などの細胞とやり取りしているのか、それによって脳の働きはどのように変わり、また、病気の原因になるのかに興味を持って研究を進めています。

現在の夢や目標

2021年に文部科学省の卓越拠点として山梨GLIAセンターが設立されました。2025年にはニューロン-グリアクロストークセンター山梨 (NGCC) が竣工し、山梨大学での研究環境は飛躍的に進展しています。今後も、グリア細胞を切り口として脳が働く仕組みや病気のマカニズムに関する研究を新しい技術を取り入れながら継続して進めて、神経疾患や精神疾患の病態を明らかにしていきたいと思っています。これまでの研究の積み重ねのおかげもあり、アストロサイトの研究に関わる日本の研究者の一人として認識されるように

なってきました。今後の目標の1つは、現在の研究分野のみならず、それ以外の研究分野にもインパクトを与えられるような研究成果を出すことです。また、山梨GLIAセンターが世界的な研究拠点となるよう努めて参ります。

座右の銘やモットー

これといったものはありません。自分自身の特性をどのように使うのが一番自分自身を活かせるのかは考えるようにしています。最近、以前の上司からgrit(やり抜く力), determination(決意), passion(情熱)が研究者として生き抜くには大事だという話を聞いて、その言葉を記録しました。また、偉大な先人が残した以下の言葉を時折見つけ、気持ちを新たにしています。

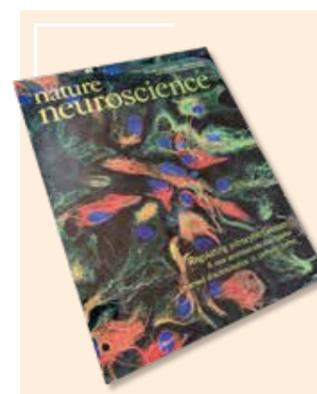
"We keep moving forward, opening new doors, and doing new things, because we're curious and curiosity keeps leading us down new paths." -Walt Disney. "Stay hungry, stay foolish" -Steve Jobs. "Chance favors the prepared mind" -Louis Pasteur. (※)



NGCC外観



NGCC研究室



論文の表紙に掲載された、自分の画像

論文の表紙に掲載されたときの画像です。研究者にとって論文は名刺の代わりのようなものです。論文を通じて研究者同士の交流は深まります。苦労して得た実験成果が論文として形になることはとても嬉しいことですが、それが幸いにも掲載雑誌の表紙になることはとても光栄なことです。

(※訳) 偉大な先人の言葉

「私たちが前へ進み続け、新しい扉を開き、新しいことに挑戦するのは、好奇心があるからだ。そしてその好奇心が、常に私たちを新たな道へと導いてくれる。」
 — ウォルト・ディズニー

「ハングリーであれ。愚かであれ。」
 — スティーブ・ジョブズ

「チャンスは、準備のできた心にも訪れる。」
 — ルイ・パスツール

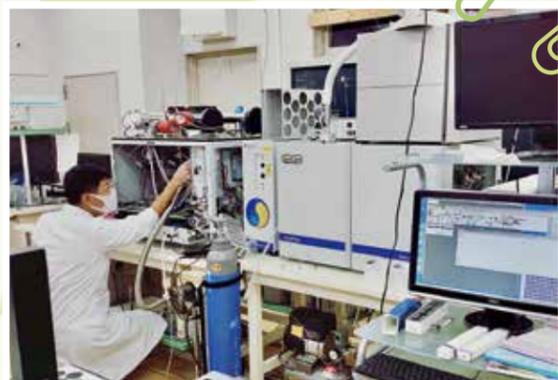
地域の水研究室

山梨大工学域土木環境工学系
(国際流域環境研究センター)



中村 高志 准教授

1981年南アルプス市(旧白根町)生まれ。地元の小中学校、高校を経て富山大を卒業。山梨大大学院へ進学し、修士・博士課程修了、博士(工学)。現 山梨大学准教授、山梨大学発ベンチャー(一社)小さな水理事、内閣官房水循環アドバイザー。



山梨大学に配備されている質量分析計

水と地域を結ぶ最先端研究

どんな研究をしているの?

私たちは「水の違い」を分子レベルで明らかにする研究を行っています。一見同じに見える水も、成分や水分子の重さを分析すると大きく異なります。山梨大学には、世界最高水準の感度を持つ質量分析計があり、水質成分や水分子の重さを超高感度で測定できます。これにより、水がどこを通過してきたか、どのような物質と接触して水質が変化したかを推定することができます。特に、目に見えない地下水や温泉水では、このような分析が地下水の流れの経路や水質変化の理解に不可欠で、水資源の保全や適切な利用方法を考えるのに貴重な情報源になります。

いろんな人々とのコラボレーション

この研究を地域社会と連携して進めています。たとえば、クスリのサンロードとの共同研究では、甲府市大里町や身延町下部温泉郷を対象に温泉水の成分分析を行い、泉質の違いとその形成過程を明らかにしました。山梨県内には多様なタイプの温泉源泉が存在し、それぞれに地質的な背景と独自のストーリーがあります。温泉の科学的

な理解を深めることで、地域資源としての魅力を再発見し、観光や地域振興にも貢献しています。

また、コーセイインダストリーズとの連携では、南アルプス市に建設中の化粧品生産拠点において、化粧品製造に使用する地下水の起源や涵養域を特定する研究を実施しています。豊かな地下水を活かした生産活動と同時に、その水源域での保全活動を計画し、持続可能な地下水利用と地域産業の共存を目指しています。科学的知見をもとに、企業と地域が協働して資源を守る新しいモデルを展開しています。



コーセイインダストリーズ南アルプス新工場完成図
(コーセイインダストリーズ提供)

山梨大学発ベンチャーで 研究成果で社会に貢献

一方、人口減少が進む地域の水道維持や災害時の断水問題に対応するため、同僚の西田継教授を代表として、山梨大学発ベンチャー「一般社団法人 小さな水」を設立しました。地方の水道事業が抱えるコスト・人材不足を補い、小さな集落でも災害時でも

機能する小規模水インフラの構築を目的としています。その取り組みの一つとして、スーツケースサイズの小型ろ過装置を開発し、10～20戸規模の集落に生活用水を供給できる可搬型造水装置として製品化しました。この装置は、能登半島地震の被災地でも給水支援に活用されています。

さいごに

水の分子レベルの分析から地域実装までを貫く研究を通じて、水資源の理解と持続的利用に貢献しています。水は単なる資源ではなく、地域の自然や産業、人々の暮らしをつなぐ存在です。科学的知見を社会に還元し、次世代の水環境を守ることを目指しています。



山梨大学発ベンチャー(一社)小さな水で発売を開始したろ過装置(RocaRoca-M5c)



能登半島での給水支援活動

ワイン品質評価学

ワインを「科学で理解する」授業



ワインの発酵で生成される代表的な香り成分を溶かした水溶液をテイスティング



担当教員



生命環境学部
地域食物科学科
久本 雅嗣 准教授

地域食物科学科では、「ワイン品質評価学」(3年次・後期)を開講し、ワインの香りや味わいを科学的視点から分析し、その品質の成り立ちを総合的に学ぶ授業を行っています。本授業の目的は、単なるテイスティングではなく、科学的根拠に基づいた評価方法を体系的に身につけることにあります。

4つの視点からワインを科学的に評価

授業では、ワインの品質を「外観・香り・味わい・総合判断」の4つの観点から理解します。これらの要素は、ブドウの栽培環境(テロワール)、醸造技術、発酵管理、熟成条件など、さまざまな要因と密接に関連しています。

1. 外観

清澄度、色調、色の濃淡、輝き、粘性などの視覚的特性から、ワインの健全性や熟成度を分析します。

2. 香り

ブドウ由来の一次アロマ、発酵由来の二次アロマ、熟成で生まれる三次アロマを識別し、発酵状態や保存条件を科学的に読み取る力を養います。

3. 味わい

甘味・酸味・苦味・渋味などの基本

味に加え、テクスチャーや余韻を形成する要因を学びます。特に渋味と酸味は、ワインの構造(骨格)を形づくる重要な要素です。

4. 総合判断

外観・香り・味わいの結果を統合し、ブドウ品種、産地、ヴィンテージ、醸造方法などの背景を踏まえて、ワインの品質を総合的に判断する力を育成します。

実践的な授業の展開

この日の授業では、テイスティング用グラスを使い、ワインの発酵で生成される代表的な香り成分を溶かした水溶液(※アルコールは含まれていません)を用いた実習を行いました(写真)。

学生は「バラのような香り」「リンゴの香りに近い」など、具体的な表現で香りを言語化し、スマートフォンから回答を入力します。即時に結果を全員で共有することで、自身の感じ方と他の学生の評価を比較し、香りの捉え方の多様性を学びます。

また、生化学や食品科学で学んだ知識をもとに、「どの成分がどの香り・味わいに関係しているのか」を解明す

ることも本授業の大きな特徴です。

座学と実験を連動させた学び

同じ週の学生実験では、赤ワイン中の総ポリフェノール量、アントシアニン量、タンニン(プロアントシアニジン)量、Ca²⁺濃度などを実際に定量分析しました。座学と実験を組み合わせることで、科学的理解と実践的スキルがより深く結びつくよう工夫しています。

「食」と「科学」をつなぐ教育を目指して

本授業では、ワインの品質評価だけでなく、世界のワイン文化、飲酒が身体や社会に及ぼす影響なども取り上げています。地域食物科学科では、食を通じて地域や社会を理解し、科学的視点から深く学ぶ教育を展開しており、本授業もその一環として位置づけています。学生には、科学的な知識と実践的なスキルをバランスよく身につけ、食と科学の架け橋となる人材に成長してほしいと考えています。



人と向き合う学びを深め、専門職として知識や技術を磨き、患者さんに寄り添える看護職を目指します！



医学部看護学科 4年生
福島県出身
ねもと おりか
根本 織華さん



富士山登頂

山梨大学を選んだ理由は？

幼い頃から医療に関心があり、その分野を学べることや学内留学など専門分野以外の学習においても多様な選択肢が用意されている点に強く惹かれました。幅広い学びを通じて、自分の可能性を広げられる環境であると感じたことが選んだ理由です。

看護学科を選んだ理由は？

医療には、病気や検体などを扱う「対物」の仕事もありますが、私は入学前から「対人」、人と関わり寄り添う仕事に漠然と魅力を感じていました。大

学での学びは、必ずしも仕事に直結するわけではありませんが、人と向き合う学びを深めたいという思いから看護学科を選びました。

大学に入ってみてどうでしたか？

1・2年生では、Miraiプロジェクトでのイベント企画や特別講義でのワイン作りなど専門分野以外の活動にも多く参加し、また、大学のプログラムで韓国に渡航し、国際交流にも積極的に取り組みました。プライベートでは、国内外への旅行や富士登山など有意義な時間を過ご



大学プログラム
韓国



看護学科の同期
(左端)

ました。挑戦することで得られる経験やそこで出会う人とのつながりの大切さを改めて感じ、積極的に挑戦できる環境にあるありがたみを感じています。

令和7年10月に卒業論文の内容を日本産業衛生学会北陸甲信越地方会で発表しました。研究をまとめ、学会で発表するまでの過程は大きな挑戦でしたが、貴重な経験となりました。今は国家試験合格という大きな目標に向け、楽しみながら全力で学習に励んでいます。



学会発表

受験生にアドバイスを お願いします！

看護を目指すうえで大切なのは、専門知識の先取りよりも基礎学力と論理的思考を育てることだと思います。面接や小論文対策も、自分の考えを整理し、それをアウトプットする練習が重要です。受験期は人とのつながりをより大切に、時に気分転換をしながら乗り切ってください。努力は必ず未来につながります。

楽しく学びを伝え、笑顔と元気を届ける先生を目指します



教育学部科学教育コース 4年生
東京都出身
ふじもと まさとし
藤本 真稔さん



剣道の
左中段構え

山梨大学を選んだ理由は？

祖母が山梨に住んでおり、小さいころから山梨に親しんでいたことが大きな理由です。祖母の家から電車で通学していますが、車内も空いていて通いやすく、何より自然が豊かなので落ち着いて学べる環境だと感じています。

教師を目指した理由は？

人に教えることが好きだからです。昔から教えたがりな面があったので、弟や弟の友達に、宿題や学校で習っている範囲のわからないことを頼まれなくても教えていました(笑)。その経

験を通して、人に教えることが自分に向いていると感じ、教師を目指すようになりました。

講義で印象に残っている ことを教えてください。

教育実習がとても楽しかったことです。山梨大学の附属小学校・中学校に行き、子どもたちと触れ合っていると時間があっという間に過ぎてしましました。一日の振り返りや翌日の準備は大変でしたが、実習先の先生方にご指導いただきながら乗り越えることができました。

サークルなどには 入っていますか？

剣道部に所属しています。年に1回、他大学と合同で合宿を行っており、令和7年度は山中湖畔で4泊5日合宿をしました。一日中剣道に向き合うことで大会への心構えもでき、10月に行われた全国学生剣道優勝大会で総合3位に入賞することができました。

今、頑張っていることを 教えてください。

剣道部の活動に力を入れています。特に今年最後の年なので、週3回の活動日以外にも毎日道場に通り、筋力にも取り組んでいます。山梨大学剣道部では、世界大会で優勝経験のある監

受験生にアドバイスを お願いします！

参考書をたくさん買うより、一冊を完璧に理解できるようにじっくり解くことで、知識を深めることができると思います。試験本番で緊張しても、みんな同じように緊張しているので、普段通りの気持ちで頑張ってください！



教育実習での
授業風景



部活の同級生
と遊びに行った
ときの一枚



合宿での
集合写真
(山中湖・
東照館道場)



剣道部インスタ

陸上競技部

甲府キャンパス



集合写真

**仲間と挑戦する楽しさ！
あなたも加わりませんか？**



練習取めの様子



夏の強化練習会の様子

みなさんこんにちは！山梨大学陸上競技部です。本部活では日々の練習を通して自分の競技力を高め、大会でその成果を出せるよう活動しています。主に参加している大会は、8月に行われる関東甲信越大学体育大会陸上競技大会や、9月に行われる国立27大学対抗陸上競技大会です。一人ひとりが記録の更新と入賞を目指して頑張っています。

陸上競技という一人て頑張るといふイメージがあるかもしれませんが、全くそんなことはありません！日々の練習では一

緒にメニューをこなし、時にはアドバイスをし合い、互いにしのぎを削りながらチーム一丸となって成長することを大切にしています。試合の時も仲間が応援してくれる暖かい雰囲気の中で、競技に集中できる環境があります！

また大会に出ることも一つの目標ですが、私たちの大きな目標として陸上競技を自分の生涯スポーツにするというのがあります。部員一人ひとりが楽しく、集中して練習できるよう、日々努力しています！

私たちの活動の様子は、Instagram公式アカウント(@nashidai_tf)や各ブロックアカウント(@nashidai_midlon)(@nashidai_throwing)で随時発信しております。ぜひフォローと応援よろしくお願ひします！

- DATA
- 部員数 : 約40名(内マネージャー2名)
 - 活動場所 : 山梨大学グラウンド
緑ヶ丘陸上競技場
 - 活動日 : 毎週火・水・金・土曜日
 - 公式SNS : @nashidai_tf
各ブロック @nashidai_midlon @nashidai_throwing

IFMSA Exchange Yamanashi

医学部キャンパス



小児科の皆さんとデンマークからの留学生

**仲間づくりも海外体験も！
IFMSA で一緒に楽しみませんか？**



留学生を迎えたウェルカムディナー



ポーランドでの臨床研究の様子

みなさんこんにちは！私たちIFMSA Exchange Yamanashiは、山梨大学医学部の国際交流サークルです。

IFMSA (International Federation of Medical Students' Associations (通称：イフムサ))は、世界140か国以上の医学生が所属する国際組織で、各国の医学部と協力し、1か月間の交換留学を行っています。

留学先では、臨床研究や病院実習など、国際的な医療現場を直接体験することができます。山梨大学からも、令和7年は3

名の6年生がヨーロッパ諸国で臨床実習を行い、貴重な経験を得ました。

一方で、夏には世界各国から山梨大学にも留学生を迎え入れています。令和7年の7・8月には7名の留学生が来日し、附属病院で実習を行いました。放課後には部員との交流会や食事会を開き、各国のお菓子を囲みながら文化の違いや将来の夢について語り合うなど、笑顔の絶えない時間を過ごしました。

国際交流や海外に興味のある方は、ぜひ

気軽にIFMSAに入ってみてください！これからは、医学生同士の国際的なつながりを大切にしながら活動を続けていきます！

- DATA
- 部員数 : 35名
 - 活動場所・活動日 : 留学生を迎え入れる時に活動を行う
 - 公式SNS : @ifmsa_2025

学生広報スタッフがレポート！

キャンパスガイド

Campus Guide

in 山梨大学工学部附属
ものづくり教育実践センター本館

私たち学生広報スタッフが
レポートします！

Amemiya Nakamura Sakurai



山梨大学工学部附属ものづくり教育実践センターは、製造システムグループ、電子・情報グループ、生命環境グループの3グループと業務支援部門からなり、本館、ものづくり工房、電子工作室、ものづくりプラザの4施設の管理運営をしています。

今回の学生広報による取材では、本館に伺い、そこで働く技術職員の方々にお話を聞かせていただきました。

本館での実習

主に工学部機械工学コース・メカトロニクスコースを対象にした、加工について実践的に学べる実習が開講されています。金属を切断したり、熱して叩いて成形したり、大きな機械で削ったりする加工法を、実際に体験しながら学べるものとなっており、それまでに各コースの座学で得た知識に実感が伴うようになる面白い講義となっています。



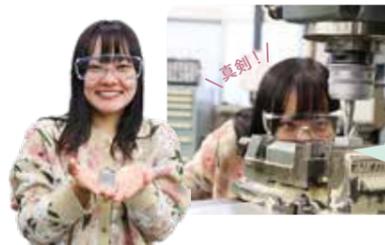
学生に伝えたいこと

ものづくりは、自分の想像を形にする作業です。職員の方は、その過程や、実際に作ったものを使った瞬間に特にやりがいを感じておられました。学生にはそれらを通し、ものづくりに興味を持ってほしいとおっしゃっています。また、学びを通し、機械を自分で使えたり、設計図を書いたりできるようになってほしいともお話されていました。

本館の設備

溶接・切削・鍛造・鋳造など、各種加工が行える機械がよりどりみどり！特に、鍛造・鋳造は、他の大学ではなかなか環境が整っていないことも。

興味があれば、どの学部でも工作機械に触れるチャンスがあるとのこと。技術職員の方も、まずはぜひ相談しに来てほしいとおっしゃっていました。



フライス盤という機械で、
金属を削る体験をさせて
もらいました！



ものづくり教育実践
センターについて、
詳しくはこちら



HP



X



Instagram

NEWS & TOPICS

1 令和8年度山梨大学・読売新聞連続市民講座
「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」

本学では令和8年度も読売新聞甲府支局との共催で、「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」と題した全10回の連続市民講座を開催します。

聴講無料。本学の教員が専門の分野を図解等用いてわかりやすく解説します。

問い合わせ先

山梨大学教務企画課連続市民講座担当

電話:055-220-8043

FAX:055-220-8796

☐ koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

開催日時・スケジュール 13:30～15:00 (開場 13:00)

開催日	演題	所属学部	講師名
第1回 令和8年 4月18日(土)	新しい医療を社会に届けるために必要なこと ～医薬品や医療機器を患者さんに届けるために～	医学域	望月 修一
第2回 令和8年 5月16日(土)	地域の「もったいない」を美味しさに変える ～食品残渣×キノコ栽培による地域資源循環～	生命環境学部	片岡 良太
第3回 令和8年 6月20日(土)	光触媒による人工光合成技術 ～カーボンニュートラル社会実現に向けて～	工学域	入江 寛
第4回 令和8年 7月25日(土)	光の「向き」で視界が変わる! ～偏光カメラが拓く磨きと検査の最前線～	工学域	孕石 泰文
第5回 令和8年 9月12日(土)	その人らしく生きるを支える ～ICU看護師として考えたこと～	医学域	山田 章子
第6回 令和8年10月 3日(土)	町並み・集落の保存と担い手育成 ～重伝建地区における連携・協働の取組～	教育学域	田中 勝
第7回 令和8年11月14日(土)	抗生物質クライシスへの挑戦 ～微生物界の秘めたる「奇跡の宝箱」～	生命環境学部	山村 英樹
第8回 令和8年12月19日(土)	豊かな人生100年時代に向けて ～知って得する「排尿トラブル」解決法～	医学域	三井 貴彦
第9回 令和9年 2月13日(土)	大型藻と水草の世界 ～山梨県内の河川や水田での現状～	教育学域	芹澤 如比古
第10回 令和9年 3月 6日(土)	廃棄物が価値に変わる ～捨てるから「活かす」循環経済～	工学域	遠山 忠

※今後の状況により、開催方法等変更となる場合があります。

申込方法や詳細は、
本学HPで
ご確認ください。



NEWS & TOPICS

2 山梨大学特色ある研究
PR展示～ワイン科
学研究～開催中!

2025.8.1 Fri.

甲府駅北口において、ワイン科学研究センター監修のもと本学が行う国内トップレベルの研究である「ワイン科学研究」をテーマにした展示を開始しました。研究内容等を示すパネル展示や、珍しいサイズのワイン瓶や樽の展示、香り当てクイズを行っています。



NEWS & TOPICS

3 全学共通教育改革の取組が
「みらい育成アワード」
でグランプリを受賞

2025.9.20 Sat.

本学の全学共通教育改革の取組が、三菱みらい育成財団主催「みらい育成アワード2025」でグランプリを受賞しました。次世代にふさわしい人材育成をめざし、創発PBL科目群など新しい教育を推進しています。



NEWS & TOPICS

4 令和7年度学業成績
優秀者表彰式を挙行

2025.10.1 Wed.

学業において特に優秀な成績を修め、かつ本学学生の模範となると認められる学部3年次生(医学部医学科は4年次生)の17名を表彰し、副賞として奨学金が授与されました。



NEWS & TOPICS

5 特別公開講座
「大学で学ぶということ」
を開催

2025.10.13 Mon.

中学生・高校生をはじめ、広く一般の方々を対象に大学での学びの意義を伝えることを目的に開催し、学長や工学部教員の講演では、大学での学びの魅力や将来への可能性を紹介しました。



NEWS & TOPICS

6 グローバルニュートラルエネルギー
研究機構(GR/EEN)
設立記念シンポジウムを開催

2025.11.18 Tue.

グリーン水素研究を世界トップレベルに引き上げるため「グローバルニュートラルエネルギー研究機構(GR/EEN)」の設立を記念したシンポジウムを開催し、国内外の研究者や関係機関と、国際連携や人材育成を通じて持続可能な水素社会実現の目標を共有しました。



NEWS & TOPICS

7 本学オリジナルテレビCM
& ミニ番組配信中

オリジナルテレビCM&ミニ番組を山梨県内テレビ放送局で放送のほか、公式YouTubeチャンネルでも公開しておりますので、ぜひご覧ください。



みんなの未来。
つくるのは、
交 MARUBUN
齋藤建設株式会社

5G時代を支える 通信用デバイスで明日を創る

住友電工
デバイス・イノベーション
SUMITOMO ELECTRIC DEVICE INNOVATIONS

山梨県中巨摩郡昭和町紙漣阿原1000
(本社:神奈川県横浜市栄区金井町1番地) <http://www.sedi.co.jp/>



山梨共立グループ採用募集中

無差別・平等の医療で地域のニーズに誠実にこたえる
プロフェッショナルを養成します。

病院・職場見学やインターンシップも随時受付中!

医療職を目指す方は
採用サイトをチェック!

Check Here!

山梨共立グループの
働き方がここに!

recruitkyouritsu.com



表紙イラスト



制作
生命環境学部
地域社会
システム学科4年生
入月 ひかりさん

大学での学びや出会いから生まれる、ひらめきや新しい知見を、手の中で輝く星として表現し、分野の異なる要素が混ざり合い、新しい価値が生まれる様子がイメージされています。(広報・渉外室)

広報誌「Vine」のアンケート
にご協力ください!

抽選で10名様に
大学の
オリジナル
グッズ
をプレゼント!

※個人情報厳重に管理し、他の目的、用途では使用いたしません。
※プレゼントの内容は予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

アンケート回答締切

令和8年 5月29日(金)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。 回答フォーム



有料広告を募集します。 山梨大学広報誌Vineに「広告」を出しませんか?

広報誌Vineは、毎年2回、全国の教育機関等に配布しています。ぜひ、貴社の広告、PR活動にお役立てください。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

山梨大学広報誌 ヴァイン

2026 Spring vol.48



本誌に関する
ご意見・
お問い合わせ

山梨大学総務企画部総務課広報・渉外室
☎ 055-220-8006 ☐ koho@yamanashi.ac.jp



未来への夢を カタチにし続ける

大成建設は未来へのイマジネーションを働かせて常に挑戦しつづけています。
デジタルテクノロジーの分野でも業界の先駆けとなる技術を開発し、未来の新しい建設現場を目指しています。

—2030年DXで変わるトンネル工事現場—

VRでの作業確認



AI機械施工のモニタ監視



動画視聴は
こちらから



山梨大学OBの 大成建設社員から一言

大成建設株式会社 常務執行役員/深澤 裕紀(1985年 山梨大学 工学部土木工学科卒業)

チームに
必要とされる存在に
なれるよう、
自己研鑽に励みます



梶原 このみ
【2025年卒業】

世界に負けない
新たな設計技術を
研究開発中!



興倉 健浩
原子力本部先端解析技術部 主任
【2019年卒業】

後世に残る構造物が
施工できるよう
設計業務に
取り組んでいます。



栗山 大明
土木本部土木設計
【2022年卒業】

ものづくりの過程に
最前線で携われる
ことが魅力です!



粟野 華衣
東京支店
【2021年卒業】

働き方改革に
率先して
取り組んでいます。



吉岡 侑
土木本部作業所推進センター
【2020年卒業】

大規模な現場に
若手のうちから
携われることが
魅力です!



長谷川 浩朗
四国支店
【2020年卒業】



採用サイトは
こちらから

インターシップサイト



地図に残る仕事。



大成建設株式会社

For a Lively World

